

風薫る五月



【5月12日（火）「応援歌用意！」運動会に向けて気合いの入る応援団】
まもなく大運動会です。赤白両軍に分かれて、団長さんを中心に応援練習をしていました。熱気ある迫力満点の姿に思わず「いいぞ！」と声をかけてしまいました。

「強み」を活かして「応受援」

校長 白澤 道夫



ほ う な い

第2号

村上市立保内小学校

強い力 豊かな心

〒959-3107

村上市下鍛冶屋 264-2

TEL 0254-62-2302

FAX 0254-62-5553

school@honai.murakamied.jp

この時期は、多くの小学校で運動会が行われます。当校も23日（土）に開催予定です。当日まであと2週間、当校でも本格的に運動会モードに突入しました。朝の応援団による練習も始まっています。団長を先頭に、ダイナミックな動きを交えて声を張り上げています。ところで「応援」の意味とはなんでしょうか。国語辞書によると「わきから助けること」「拍手をしたり、声を出したりして、味方のチームや選手をはげますこと」と書いてありました。なるほど、この時期にかかわらず、人が生きていく上で価値ある言葉だと思えます。

では、皆さんは「受援（じゅえん）」という言葉を知っていますか。「受援」とは「人に頼ること」「援助を受け取ること」です。もともとは防災用語なのですが、コロナ禍以降、人間関係をよりよく活かす能力として捉えられるようになりました。

従来の「受援」からは「何かをしてもらうだけの弱い立場」というイメージをもつ方もいると思いますが、現在は「主体的に周囲のサポートを資源として捉え、活かすこと」と考えます。

ご承知のとおり、人間は完璧ではありません。しかし、誰にでも、好きなこと・得意なことは必ずあります。それらは一人一人の「強み」であり、自分らしさを支える太く大きな柱です。

それでも人は完璧を求めます。（その努力や前向きな気持ちは素晴らしいことです。）一方で人間は一人では弱い存在です。混迷の様相を見せている現在だからこそ、互いの強みを活かすこと、つまり「応受援」の力を身に付ける必要があると考えています。

さいごに「応受援」の力を伸ばす方法を教えます。（私の実感を伴う「とっておき」です。）

- あいさつをする … あいさつは、お互いの存在を意識する言葉です。
- 「いいね」と伝える… 結果もいいですが、途中経過の中でこそ効果がある言葉です。
- 「うん、そうだね」と伝える… 相手を受け入れることで安心感をもたせる言葉です。
- 笑顔をみせる … 言葉を用いない相手とのやり取りは、時に言葉を超えます。
- お礼を伝える … 感謝は、相手に自らの価値を意識させ、関係が続きます。

当校では、言語の力（非言語を含む）と共に「応受援」の力も伸ばし、互いの強みを活かし、太く・強くつながる子どもを育む学校にしていきます。運動会でもその姿を期待しています。

